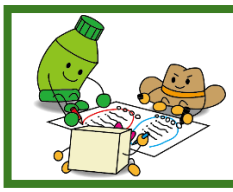

中部人懇だより

令和７年度　第２号
令和７年９月発行
中部地区人権教育懇談会

「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。
被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971 年（昭和４６年）に発足しました。

【第２回懇談会　報告】期日：令和７年７月２８日（月）　参加者：７４名

第2回懇談会は、就学前施設職員、学校教職員を対象に行いました。差別の現実から深く学び、自らの実践を振り返るとともに、差別解消に向けて主体的に取り組む子どもを育成する人権教育のあり方について考えることをねらいとして開催しました。

【講義】
「部落差別の解消をめざして」
倉吉市人権文化センター
下吉 真二 所長

教科書無償の取組、紫雲丸事故など、部落差別の歴史の中で、被差別部落の方たちがどのような思いで取り組んできたのか、また、その取組や思いが全国に広がり、みんなが幸せに暮らせる社会づくりにつながっているというお話をいただきました。
「私たちには、次世代にバトンをつなぐ役目がある」という熱い言葉が印象に残りました。

【講義及び演習】
指導参考資料（教職員用）「部落差別の解消をめざして」（人権尊重の社会づくりの担い手となる子どもの育成について）
鳥取県教育委員会事務局
人権教育課
田村 公顕 係長

幼児期から人権感覚を育んでいくことが、自分の人権、他者の人権を守るための実践行動につながっていく、それを意識して子どもたちの教育に携わることが大切であるというお話をいただきました。

グループ討議より

◆人権尊重社会の担い手となる子どもたちを育むために、園・学校で大切にすべきことは何か
・一人ひとりが大切な存在であると実感できる関係づくり
・自分や友達の良いところを見つける、友達と協力する経験など、関わりの中で学ぶ環境づくり
・教職員も大人として、自分自身の人権感覚を磨いていくために、取組や関わり方を振り返ること
・教職員が学び続け、学んだことを校内・園内で共通理解し、取組につなげること

参加者の振り返り

○子どもたちに正しい知識を伝えるためにも教職員が学び続けることが大切だと感じた。子どもが小さいから何もしないのではなく、子どもの発達段階や実態に合わせながら、その時その時に必要な関わりをしていくことが大切だと学んだ。
○小学校教育の中で、1年生から6年生までの系統性を意識した人権学習が必要だと思った。そのために、学校で人権教育の位置づけを再確認し、協力して進めていきたい。
○園小中で情報共有できたことで、人権教育で目指していくものを確認できた。
○グループ討議で小中学校の先生方と意見交換を行い、発達に応じた人権教育の必要性と自尊感情の土台を、幼児期に育んでいくことの大切さを改めて実感した。
○子どもたちの実態は変わってきているので、子どもたちの実態に応じた学習が必要だと思った。
○私たちの人権が守られているのは、先輩方の努力があったことを改めて心に刻むことができた。私も次世代にバトンを引き継ぐ役目を担いたいと思った。
○「人権と思いやりのちがい」を問われたときに、すぐに答えることができないと思った。私自身も継続的に学んでいきたいし、子どもたちと一緒に、この問いについて考えてみたいと思った。

差別の現実から学び、自らを振り返ることは、周りの人の思いに気づき、人を大切にすることにつながります。自分がすべきことは何かを考え、差別解消への一歩を踏み出しましょう。